

### 環境調査結果のお知らせ

令和8年5月14日10時から野見湾の環境調査を実施しました。

#### 概況

検鏡の結果、魚類に対して有害とされるコクロディニウム・ポリクリコイデスが最高で6 cells/mL、麻痺性貝毒の原因種とされるアレキサンドリウム属が最高で4 cells/mL、**ギムノディニウム・カテナータムが最高で8 cells/mL確認されました。ギムノディニウム・カテナータムは、二枚貝の毒化が想定される密度（警戒基準値）を超えていますので、十分注意してください。**

海や養殖魚の状態に不安や変化を感じた時は、水産試験場か中央漁業指導所まで連絡してください。

調査点 (透明度) 【調査時刻】	海洋環境				プランクトン			
	深度 (m)	水温 (°C)	塩分	溶存酸素 (mg/L)	コクロディニウム・ ポリクリコイデス	珪藻	アレキサンドリウム 属	ギムノディニウム・ カテナータム
A ガラク (6.9m) 【10:24】	0	21.6	33.5	7.9	0	800	0	0
	2	21.3	33.8	8.0	0	100	0	0
	5	21.3	33.8	7.8	0	460	0	0
	10	21.2	33.9	7.7	0	600	0	0
	底層 14	21.1	34.0	7.8	-	-	-	-
B 勢井 (4.7m) 【10:35】	0	22.6	33.8	7.9	0	1,200	0	0
	2	22.0	33.9	8.2	0	1,950	0	0
	5	21.7	34.0	8.4	4	460	0	0
	10	21.3	34.0	8.1	0	520	0	0
	底層 16.5	20.7	34.3	6.7	-	-	-	-
C 馬の背 (4m) 【10:41】	0	22.3	33.9	8.1	2	1,950	0	0
	2	22.3	33.9	8.2	0	960	0	0
	5	21.8	34.0	7.6	0	1,400	0	0
	10	21.3	34.1	7.9	0	1,250	0	0
	底層 21	20.4	34.4	6.6	-	-	-	-
D 大室戸 (3.6m) 【10:14】	0	22.5	34.0	8.2	0	80	0	0
	2	22.0	34.0	8.2	0	180	0	0
	5	21.8	34.0	7.9	6	640	0	0
	10	21.3	34.1	7.6	0	130	0	0
	底層 18.5	20.1	34.4	6.6	-	-	-	-
E 湾奥ブイ (3.8m) 【10:04】	0	22.7	34.0	8.2	0	50	0	0
	2	22.5	34.0	8.2	2	40	0	0
	5	21.9	34.0	8.5	0	50	0	0
	10	21.3	34.2	7.8	0	30	4	8
	底層 15.5	20.3	34.4	6.0	-	-	-	-

参考：有害プランクトンの種類と注意及び警戒基準

有害プランクトン	被害	注意基準（※1）	警戒基準（※2）	主な赤潮発生時期 ※3
				野見湾
コクロディニウム・ポリクリコイデス	魚類等のへい死	10 cells/mL	100 cells/mL	2～4月
アレキサンドリウム属	二枚貝の毒化	10 cells/mL	100 cells/mL	1～4月
ギムノディニウム・カテナータム	二枚貝の毒化	—	1 cell/mL	—

※1 注意基準：餌食いの悪化、警戒基準に達する恐れのある密度

※2 警戒基準：魚類及び二枚貝のへい死並びに二枚貝の毒化が想定される密度

※3 あくまで目安なので、水産試験場・漁業指導所の広報や養殖魚の状態に応じて、慎重な養殖管理をお願いします。



- A: ガラク
- B: 勢井
- C: 馬の背
- D: 大室戸
- E: 湾奥ブイ

コクロディニウム・ポリクリコイデス  
最大細胞密度



珪藻  
最大細胞密度



アレキサンドリウム属  
最大細胞密度



ギムノディニウム・カテナータム  
最大細胞密度



凡例

プランクトンの細胞密度を示す円の大きさ  
円のサイズが大きいくほど、プランクトンの数が多いので注意してください。



注意・警戒を示す円の色  
黄・赤色の円が確認された場合は、魚介類に悪影響が生じる可能性がありますので、注意してください。  
基準値は、「参考：有害プランクトンの種類と注意及び警戒基準」を参照ください。

